（社）名古屋西法人会事業委員会・女性部会
地域社会貢献活動講演会

「子育てのツボ」

日　時／平成23年９月24日（土）

場　所／ウェスティンナゴヤキャッスル２Ｆ

「青雲の間」

講　師／夜回り先生

水　谷　　修　氏

いまこそ、日本を“優しさ”で覆いたい

満席となった会場に“夜回り先生”は、命の重さを熱く強くメッセージした。

横浜市立港高校に勤め始めて20年間、夜の世界をはい廻ったきっかけは、夜間定時制高校に勤めていた親友の「腐った生徒を相手にいい教育はできない」の一言だった。

子ども達を腐らせたのは大人や社会に責任がある。「勉強は面白い」と教え、心が荒れた生徒を救うのが教員の仕事と決め、彼らと人間関係を築くために夜回りが始まった。

最近気になるのは、薬物問題がひどい名古屋。

10代のリストカットがもっとも多いのも愛知県と指摘し、原因を取り除き専門家や宗教の力を借りて解決することを提案した。

京都では週末、知恩院の僧侶たちが、松明をあげながら町を歩く予定もあると聞く。講師はこれを「日本人の文化力」という。

数えきれない「死にたいメール」を出した女の子は、東日本大震災で被災し、体育館に避難した。

雪が降って寒いある日、おばあちゃんが「寒い」と震える声に思わず抱きしめてあげる。

そのおばあちゃんは、「ありがとう」と言って眠りについた。

その時、彼女は「人のために何かした時、返ってくる優しさやありがとうの一言がキミのあしたを拓く。それが君の生きる力になる」と語ってくれた講師の言葉を理解することができた。

「もう死なない。これから人の命を救う仕事をする」とメールが届いたと、講師は嬉しそうであった。

講師の「子育てのツボ」をまとめてみた。

◇早起きして、戸外の美しいものを探そう。

心が優しくなり、実りある一日になります。そして、毎日、走って肉体を使って下さい。心が病みません。

◇人は認められ、評価されることで、自己肯定感を持ち、生きていく力を培います。

「お前は宝物だよ」家の中を美しい、優しい言葉で満たして下さい。子どもは受けた愛や希望が多ければ多いほど非行や犯罪から遠ざかります。

◇“愛”とは、お互いを必要とし、支え合い助け合い、共に生きて、振り返ったときに見えてくるもの。

語るものではありません。

◇家庭は、家族の憩いの場所です。

幼いときに夫婦ゲンカを見て育った子どもは、人が怖くなり、信用できなくなり、ビクビクしてイジメの対象にもなります。

◇“生き方”は、自らの行動で教えるものです。

お年寄りに優しくしたり、努力する姿を見せ、「お母さんの子どもで良かった」と言ってもらえることが大事です。

◇携帯電話、メール（インターネット）、ゲーム機は人を奴隷にします。

依存症に陥らせないために、週に１日、すべての電子機器を使わない日を作ろう。

最後は命の話であった。

「いま自分が生きているということは、一度も命の綱が途切れることなく続いてきたということ。だからキミたちも生きて、生き抜いて、次の命に繋いでください。死にたくなったら思い出せ！無念の思いで死んでいった多くの人たちのことを。命の尊さを忘れるな。」

日本全体を“優しさ”で覆いたいと、現在講師が繰り広げている「八三運動」は、登下校時間の８時と３時に子どもに声掛けをする活動で、子どもたちの目が輝くようにとの願いから始めたそうだ。

「夜の世界との戦いは途中で引けば、こちらが殺される。私は子どもたちを傷つけた人間を許しません！」の言葉が重く、響く。

右手親指をつぶされ、撃たれた傷もある。それを大したことはないと言い切り、その子のために命を張る“夜回り先生”の覚悟と行動力に、大いに感銘を受けた。

※この記事は平成23年９月24日（土）の講演のレポートです。　文責（社）名古屋西法人会